

殺虫剤燻蒸器

実 願 昭 37-63655
出 願 日 昭 37.10.25
考 案 者 満田実
広島市尾長町東山根204
出 願 人 株式会社大下回春堂
東京都千代田区神田美倉町11
代 表 者 大下高明
代 理 人 弁理士 三原隆

図面の簡単な説明

図面は第1図、第2図は夫々本案品の要部を示す断面図である。

考案の詳細な説明

この実用新案は殺虫剤を均等に持続し、殺虫効果を上げるように工夫した殺虫剤燻蒸器に係り図面に示すように電動輪1と調車とをめぐる繊維膜の調帯3を設けて調帯3の一部には殺虫剤の滲潤装置を設け同調帯の他の一部には電熱具4を沿わせて燻蒸部を設けたものである。

尚上記滲潤装置として第11図においては収容器

5へ収容された殺虫剤の中へ調帯3が浸りめぐるようにしたものとし、第2図に於いては殺虫剤収容器8より調帯3へ殺虫剤を点滴するようにしたものを示す。

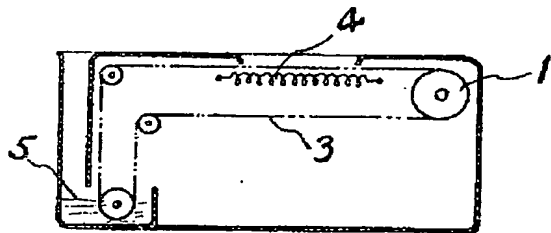
又電動輪1は電力によつて能動的に回転するようにした調車であつて例えば電熱によるバイメタルの伸縮を動力源とし、バイメタルへの電流を断続させてバイメタルに伸縮繰返運動を与え、その繰返伸縮によつてラチェット歯車を繰り送るようにしたものである。

本案は以上のように構成してあるから電動輪1を電氣的に駆動する時は一部に於いて殺虫剤の滲潤した繊維膜が遂順に燻蒸部をめぐり、電熱具4によつて加熱され蒸発する。この装置によると調帯の移動を一定速度とすることは普通にでき、その繊維膜に滲潤した液を燻蒸するものであるから消費量の変速が殆どなく均等な蒸発を持続して殺虫剤の有効な消費を行う事ができる。

実用新案登録請求の範囲

図面に示すように、電動輪1と調車2とをめぐる繊維膜の調帯3を設けて調帯3の一部には殺虫剤の滲潤装置を設け、同調帯の他の一部には電熱具4を沿わせて燻蒸部を設けた殺虫剤燻蒸器。

第1図



第2図

